

鳥取県東部 15 市町村に見る

廃棄物施策のごみ排出への影響について

開発情報工学研究室 清水 幹夫

1. はじめに

現在、社会生活の中でごみの問題は大きく取り上げられている。その中、ごみ減量化に向けた市町村の役割として、消費者が分別の徹底をして、より多くリサイクルするように意識が高まるような施策をもって啓発活動等に努めていくことが求められている。本研究では、鳥取県東部の15市町村を取り上げて、ごみ減量化に向けて、現在の廃棄物施策がごみ排出量へどのように影響しているのか明らかにし、今後の廃棄物施策がより効果的に生かされていくように、廃棄物施策の評価を行う。

2. 一般廃棄物の排出量

鳥取県東部 15 市町村を対象に、家庭から収集される可燃ごみ・不燃ごみ（資源ごみ・プラスチック・小型破碎・大型・乾電池類）の各廃棄物別の排出量の違い、傾向を調べた。

年度ごとの推移では、可燃ごみ、プラスチックごみは年々増加の傾向にあり、資源ごみは平成 10 年度にかけて増加しているが、平成 11 年度にかけては減少している。大型ごみ、乾電池類の排出量はそれほど年度の違いは見られなかった。各市町村の排出量の比較では、それぞれの市町村に分別種ごとの排出量の違いがあることがわかった。

3. 聞き取り調査の概要

各市町村の廃棄物施策を明らかにするために、以下の 3 項目を中心とした聞き取り調査を行った。①一般廃棄物（可燃ごみ・不燃ごみ）の収集処理体制の概要②一般廃棄物の分別収集状況と住民への周知手段③地域住民・行政組織の廃棄物排出への関わり。

その結果、鳥取市、郡家町では可燃ごみに対して指定袋を導入していないが、他町村では導入していること。青谷町では他市町村に先駆けて生ごみ処理機への斡旋・補助をおこなっていたことな

ど市町村の違いが明らかになった。

4. 数量化 I 類による廃棄物施策の評価

聞き取り調査より得られた各市町村の施策、各廃棄物排出量の違いをもとに、廃棄物施策がどのように廃棄物の排出へ影響しているのかについて数量化 I 類によって分析を行った。分析の結果をまとめた例を表-1、表-2 に示す。可燃ごみの排出量には指定袋の導入、資源ごみの排出量には小型破碎ごみの収集回数、集団回収が大きく影響することがわかった。またプラスチックごみの排出量には焼却場のひっ迫などの理由による分別徹底の説明の強化、プラスチックごみの収集回数が影響することがわかった。小型破碎ごみの排出量には袋・コンテナ、小型破碎ごみの収集回数が大きく影響することもわかった。

表-1 ごみの排出に影響を及ぼす要因の一例

アイテム	指定袋	集団回収	小型収集回数	委員	観光地
可燃ごみ	◎	○	△	△	△
資源ごみ	-	○	◎	-	△

◎、○、△の順に影響が大きく、-は影響が小さいことを表す

表-2 ごみの排出に影響を及ぼす要因の一例

アイテム	プラスチック収集回数	小型収集回数	焼却場	袋・コンテナ	委員
プラスチックごみ	○	-	◎	△	-
小型破碎ごみ	-	◎	-	○	△

5. まとめ

本研究では、廃棄物施策の影響が各市町村のごみの排出量へどのように影響しているのかを明らかにした。しかし世帯人数や職業、ごみ排出に関する意識など、各世帯に固有な要因と、季節的な景気など自然・社会的な要因も、ごみの排出に大きく影響していることが考えられる。今後はこのような要因も含めて分析、検討を行っていく必要がある。